

## 第4回核融合炉・遮蔽定数WG議事要旨

1. 日時 昭和58年3月11日(金) 13:30~17:00
2. 場所 原研本部 第7会議室
3. 出席者 13名(敬称略, 順不同)  
中沢, 井口(東大), 菊池, 関, 長谷川, 大山, 山野(原研), 川合  
(NAIG), 高橋(阪大), 中田(川重), 萬代(IHI), 南(富士  
通), 角田(MRI)

### 4. 配布資料

- FS 82-6 第3回議事要旨
- FS 82-5 DDX-sub WG報告(井口)
- FS 82-6 第6回遮蔽国際会議発表論文の骨組(案)(川合)

### 5. 議事

#### (1) 前回議事録確認等

了承された。又、シグマ運営委にて本WGの経過報告を行った旨報告された。

#### (2) 核融合炉ニュートロニクス用核データ評価

関委員よりFNSにおける核融合炉ニュートロニクス日米共同実験計画の説明及び解析に必要な核データ提供につき、核データセンターへ要請がなされた旨、報告された。核種は $\text{Li}_2\text{O}$ 及びSUS材(Fe, Ni, Cr, Mo, Mn)の7核種である。又、菊池委員より核データセンターとしてはJENDL-3の評価作業が進捗中であるが9月頃迄に当面の評価結果を提供する予定であると報告された。

#### (3) DDX-sub WG報告(井口)

DDX-sub WGの作業経過報告が資料(FS-82-5)を用いて井口委員より報告された。特にJENDL-2の鉄のデータをFAIR-DDXを用いて処理した結果と阪大OKTAVIANでの実験値との比較例が説明され群構造, FORMATなど今後の作業方針が検討された。

#### (4) 第6回遮蔽国際会議発表論文(案)について(川合)

“JENDL-2の高速炉遮蔽解析のためのIntegral Test”としてとりまとめられた結果を中心に発表論文骨旨が資料(FS-82-6)を開いて説明され了承された。

(5) 次年度の作業計画

蔽遮 sub WG は、上記の国際会議の論文作製及びその結果を基に Fe の非弾性散乱断面積の修正や Window の効果を考慮した最適な群構造の検討を行なうこと、又、二次ガンマ線生成核データについて文献調査、評価手法の検討に着手する予定との意見が述べられた。

DDX sub WG では、阪大 OKTAVIAN や東北大グループから入手できる DDX 実測値と JENDL - 2 からの算出値の総合的比較作業を実行する予定とし、更にその詳細をつめていくことになった。